

き

輝なんせ鳥取

2007.11
第9号

ひと ひと
女と男とのハーモニーフェスタで
「Sand Ripple」さんにブレイクダンスを披露していただきました



目次

- ひと ひと女と男とのハーモニーフェスタ …… 2
- ひと ひと女と男の一行詩 …… 3
- 鳥取市立南中学校の皆さんがフィールドワークとして男女共同参画センターに訪れました …… 4

- ひと ひとインタビュー女と男
ジャン ホンメイ鳥取市国際交流員 姜 紅梅さん …… 5
- 訪問取材 “おじゃましま～す”
「鳥取三洋電機(株)」 …… 6

ひと ひと 女と男とのハーモニーフェスタ

～支え合い共に歩もう鳥取2007～

平成19年10月13日(土) 秋晴れのもとに開催され、当日は約790名の人出でにぎわいました。

ステージ発表



鳥取市男女共同参画登録団体「レディースあすか」の『尾崎かおる』さんに「ニューヨークに学ぶ男女共同参画」と題して活動報告していただきました。

ニューヨークに学ぶ男女共同参画について（尾崎さんに執筆いただきました）

「ニューヨークに学ぶ・交流しよう団」の活動について
レディースあすか 会員 尾崎かおる



‘05年7月13日から20日の8日間、(滞在は5日間)アメリカのニューヨーク市を訪れ、欲張り日程の交流・視察をしました。

訪問先は日本国連代表部、国連女性差別撤廃委員会の傍聴、女性の政治参画・DVの専門家、女性実業家協会、YMCA、ニューヨーク市女性向上委員会・人権委員会、メトロポリタン美術館学芸員、鳥取県人会、働く若者、市内の大学生、ニューヨークの実際の家庭など盛りだくさん。

国連日本代表部では高瀬公使(母親は旧八東町出身)が「イベントの世界会議の時代は過ぎ、すでに採択された課題を実施していく段階。女兒のAIDS、女性の経済的向上など多くの課題にジェンダー(性差)平等の視点を入れることが重要」とお話しくださいました。

DVについてマジョリー弁護士は「自尊感情が低い男性ではなく、逆に優越感が強い人が加害者となることわかってきた。「共感力」を育てることが重要」と研究の成果を披露されました。

ニューヨークの若者たちは日本同様、音楽やファッションに興味を持ちつつ、「結婚するのは経済的に自立してきちんと子どもに責任を持てるようになってから。」などしっかりした将来像を持っていました。本当に多くの学びのある5日間でした。

20年の間、あすかのメンバーはいろいろな国に出かけて学んでいます。講演、座談会などに呼んでくだされば、みな張り切って話に出かけます!!

講演 加賀美幸子さん

「『どう伝えあうか』～言葉の力・言葉の心～」と題して講演いただきました。



講演される加賀美さん



皆さん熱心に聞き入っていました

ワークショップ



参加団体が各々工夫をこらし展示、即売、喫茶等を実施し賑わいました。

皆さんの感想

ステージ発表について

- レディースあすか(発表団体)の活動を聞き、取り組みの充実を知ることが出来て良かったです。(60代女性)

講演について

- 加賀美さんのやさしい声が心地よかったです。(40代女性)
- 「言葉を伝えるには心が大切ですよ」との言葉が印象的でした。(60代男性)
- 美しい言葉と声で心が豊かになりました。(50代女性)
- とても良かったです。もっともっとお聞きしたいくらいです。(60代女性)
- 生きる力をいただいたように思う。(70代女性)

ワークショップについて

- 各展示により各団体の活動状況がよくわかりました。(40代女性)
- 喫茶は心地よく休めるのでいいと思った。(10代女性)

ひとひと 女と男の一行詩

入賞作品

小中学生の部

☆最優秀賞

男でも女でも なんでもできないうちはない まずは やってみること

☆優秀賞

男子の声と女子の声 心ひとつに合わせれば みんなすてきな ハーモニー
家庭科で 習ったサラダ 家でする 味はどっかな 男の手料理

☆入選

すもう大会の よこずなになったよ わたし 男子と力を合わせて ゆうじょうするぞ
男の子、女の子、いろんな人がいるんだよ だから きめつけ よくないよ
ぼくたちは 男女いっしょ チームです 試合はみんな 応えんします
男は仕事 女は家事 そんな時代おくれ と言っ僕も 時代おくれ

一般の部

☆最優秀賞

ちがいない ありはしないと 言いながら 職場と家庭で つかい分け?

☆優秀賞

働く喜びは 老若男女みな同じ 誰かのために 自分のために そつ分かち合い
お茶入れは 気づいた女男で進んでし 慣れない所作で そつこくし出す

☆入選

「退職したらやめてやるよ。」 何年後かの 約束より 今の「手」がほしい 共稼ぎの日々
女と男の 助けあう姿が多くある所 笑顔がはじけ あふれる優しさ
女の仕事? 男の仕事? どっちがやってもいいじゃない 大切なのは「ありがとう」のその心
私には見えないものを見る貴女 共に働く喜びに感謝

編集委員が選んだ皆さんの力作

小中学生の部

おじいちゃん いつもおいしい たまごやき こんど ぼくも つくってみたい
「だいたいま」 かえってくるのを まっている おとうさん おかあさん いもつとのおかえり
ぼんご飯 お母さんだけであるよりも お父さんもいっしょなら なぜか笑顔が出てくるね
ぼくは げんかん 母さんは へや 父さんは ろう下 力合わせて そつじをしたよ
ぼくのうちは お父さんもお母さんも おりょう理できる 二人ともすごいな
ぼくの親 父が店長で 母が副店長だ 家に帰れば 反対だ
世界一 力合わせて がんばろう 父と母 姉と妹 人と人 女と男
いじめっこ 数人なんて ひきょうだぞ 女のわたしが カツいたるわ
父と母 どちらの料理も おいしいね ふたりですと 百ばいおいしい
公園で 男子が遊びに さそってくれた 意外だけど なんかうれしい
おばあちゃん たまには仕事 休んでよ 男の人より がんばっているよ
よく見たら 女の子の手は 小さいな ぼくの大きな手で 助けてあげたいな
世界中 男女協力 仲良くしたら 悲しむ人ない 明るい世界
なぜ 男女で決めつけるの スタートはだれもが 同じじゃあないか
みんなが同じ みんなが平等 そんな社会をめざそうよ

一般の部

すまないな いつかはしよう 後始末 思い思いで 酒あおる
女と男 みんな仲良く笑顔で暮らす それが理想の鳥取市
ありがとう ごめんなさいは 言えるのに 愛するとは 夫婦なぜ言えず
定年後 毎日サンデー 自らの家事共働実践で 熟年離婚を回避す!
いすれ訪れる 老々介護 今から互いに理解を深め 協働で築く終身安心!
家事仕事 今は私と妻の二人住まい 率先すれば 家庭は円満
女(ひと)と男(ひと) 平等の実践が 平和・福祉の社会と家庭を創る
真剣に 聞いときゃよかった 家庭科の授業
男だから 女だから あたりまえなんてない 感謝の気持ちで接したい
休日の 育児は任せろ 大丈夫 ひきつる笑顔で 妻を見送る
夫の家事協働実践で 「男女共同参画」のありがたさに感謝・感激!
お好み焼き 「父が作ると おいしいね。」 妻子にほめられ まんざりでもなし
女性が強生きるいま時代 心の支えは あなたです
心地よい 二人並んで 立つキッチン 遊ぶ子の声 背中であらう

一行詩をよんで (編集委員感想)

一行詩を拝読してみて、入賞された方、あるいは、編集委員が選んだ力作には感銘を受けました。「男女共同参画」の意味をしっかりとつかんでの作品：私も選考(編集委員の選んだ力作)にあたっては「男女共同参画」にふさわしいと言いつ事を考えながら選考させていたのだつもりです。男女共同参画の意味がまだ定着されていない昨今、この一行詩をみて、小中学生、一般の部でも一人一人に認識が広がった様に思いました。
私も含めて、もう少し原点到り帰ってPRするなり、何かの方法で啓発して行きたいと念願するものです。

鳥取市立南中学校の皆さんが フィールドワークとして当センターに訪れました。

7月3日(火)に南中学校の3年の生徒が訪れました。
当日は、センター職員からの施設説明及び男女共同参画についての説明を熱心にメモを取りながら、真剣に聞いていただいた姿が印象的でした。



今回の訪問で男女共同参画の意義や必要性について考えていただけたことと思います。



生徒さんの声を紹介しませう (一部抜粋)

「男女共同参画社会」について公民で習ったときよりすごく深いところまで学べた気がします。今まで「女だから」「男だから」や「女のくせに」「男のくせに」などの言葉で決めつけられたことがあります。「女らしく」「男らしく」もその言葉で規制されるなら使ってはいけないと言っていました。男も女も関係なく「自分らしく」生きられるような社会にしていきたいです。ジェンダーについては、自分の中では、そんな気持ちがないと思っていたのに、「男は仕事」「女は家庭」だといつのまにか思っている自分がいることに気づきました。自分の中にある「性差」をなくして行って、周りの人にもジェンダーをなくそうと呼びかけができるようになりたいです。

日本でも社会でもっと女性が活躍できるようにしていきたいと思いました。

私はこの学習で「自分らしく」、枠にとらわれずいきいきとした人生を送りたいと思いました。そしてみんながそういう生き方ができる社会になってほしいと思いました。

自分たちの学んだ所では、共に自分らしく歩んで生きていくことが自分の個性を引き出すことだと学びました。全ての人々が暮らしやすい社会へと施設の人々ががんばっているように自分たちもがんばらなければいけないと思います。ドメスティックバイオレンスや女だからダメなど女性に対する暴力や差別をしないように生きていくよう常に心がけていくことが大切だと思います。女性も男性も平行な道、同じ道を歩んでいかなければいけません。ジェンダーのように、「男は外で仕事、女は家庭で家事」という固定概念をなくすことがこれからするべきことだと思います。

私は男女共同参画センター輝なんせ鳥取に行く前は、プリントをしてもまだジェンダーという考え方が頭にすみついていたのかジェンダー意識がありました。

行った後では男女共同参画社会はどのような社会かを聞いて私たちの将来を男女共同参画社会のような社会にしていきたいと思いました。まだ、社会では男性と女性の間はまだ不平等だという人もいるし、家庭・学校・職場・地域・社会でそれぞれの個性と能力を發揮できるような社会を作るため、輝なんせ鳥取は必要だということでした。私は男らしく、女らしくという言葉もジェンダーになるかと思ったけど「男らしく、女らしく」という言葉はいけないことはないけれど、そのような言葉で女性・男性の活動などをさまたげるようなことはいけないということでした。私が輝なんせ鳥取で学んだことは「自分らしく」「共に」というキーワードです。人間(人)は皆自分らしく生きて(生活して)男性も女性も共に協力して生きることが大切だということです。「自分らしく」「共に」という言葉が私の心の中では、一番心に残ったのでどんな時でも人(友達や家族や地域の人)と共に(一緒に)協力し合って私も、皆も自分らしく将来輝けたら良いと思いました。

男女共同参画社会について学び考えることができました。世界の国々と比べて日本は教育水準では上位なのに女性の社会活用度は世界42位と下の方です。これからは、男女共同参画の考えを広げてゆき男女ともに平等な社会にこれからなっていくと思います。

男女共同参画社会のキーワードは、「自分らしく」「共に」です。

今回輝なんせ鳥取に行って男女共同参画社会について学べてとても良かったです。



お隣の国 中国の事情



姜さん(写真右)とのインタビューの様子①

鳥取市国際交流員 姜さんに聞きました！

滑らかな日本語を話される姜さん。日本語との出会いは中学の選択授業からだそうだ。(今では日本語能力試験1級の資格を持つまでに)

江蘇省常州市という賑やかな都市にいた彼女は、交流先として静かな町鳥取を選んだ。以前交流員として鳥取に住んでいた先輩が、美しい自然と親切で素朴な人柄の町として強く推薦してくれたからだそうだ。

生活習慣の違いに戸惑うこともあるかと思えるのに「鳥取の刺身が美味しかった!!」と朗らかに話す姿からはむしろその違いを楽しんでいるようである。

中国の憲法では「男女平等」を明文化し、女性が家を出て仕事を持ち、男も女も同じ仕事なら同じ給料で働くことを要求したとのこと。又毛沢東が提唱した“男ができることは、女にもできる”“女性が天の半分を支える”という考え方が広く社会に浸透している。

多民族国家の中国で朝鮮族(56ある民族の1つ)に属する姜さんの家庭もそうだった。両親は共働き、仕事から帰ったお父さんは家事を手伝ったり、会社の帰りに買い物をしたりすることもあったとのこと。

参観日にはお父さん、お母さんが半々、それが普通。

一般に育児において、特に、子供が小さい時は実家の両親が世話をしてくれる。仕事を終えて子供を迎えに行ったついでに食事をさせて貰い、その代わり生活費としての費用を払うのが慣習としてある。



姜さん(写真中央)とのインタビューの様子②

もちろん保育施設も充実しているので、女性は安心して子供を預けて働くことができる。

儒教の「三従」(女は幼くしては父、嫁しては夫、老いては息子)に縛られている中国という考えが見事に覆るインタビューだった。



国際交流員として中華人民共和国の江蘇省から着任された
『姜紅梅』さん

は、企画調整課にて交流事業を通して、国際交流を進めておられます。

取材を受けて (姜さんに執筆いただきました)

私は鳥取市に男女共同参画課という組織があり、男女の平等のためにいろいろな事業を行うことに驚きました。私の今までのイメージでは、日本の女性は旦那さんが仕事に出かける時ドアまで見送り、家事、子育てばかりだと思っていました。もちろん中国にも婦人連合会という組織があり女性の権利と社会貢献のためさまざまな活動を行います。私にとっては平気なことが取材の皆様には驚きであるということにびっくりしました。それぞれの国によって事情が違うように生活パターンも違うし、女性たちの考え方と社会での活躍の割合も違うことに気がつきました。最後に、みなさんの男女共同参画社会での活躍とますますの発展をお祈りします。

訪問取材 “おじゃましま〜す”

今回は “鳥取三洋電機株式会社” を訪問しました



「鳥取県男女共同参画推進企業」の認定や「鳥取市次世代育成優秀企業の優秀賞」になるなど、「男女が共に働きやすい職場づくり」や「子育て支援」に積極的に取り組み、更に「家庭と仕事の両立支援制度」を先駆けて導入されている。

鳥取三洋電機は、約40年前、現在の立川町7丁目に三洋電機の「西の開発・製造部門」として設立された。現在、正社員1400人近くのうち約1/3が女性の従業員である。又、1000人近くの派遣社員を抱えている。平均勤続年数は約20年と長い。

職場に対する要望の受け皿としてホットラインを設け、更にセクハラ相談員もいる。

育休は出産後57日目から最大1才到達3月末まで取れ、多くの母親が育休後も職場復帰をする。育休の間には月1回社内報を届け復帰しやすいよう情報提供している。更に子供が小学1年生を終了する3末日まで短時間勤務制度等を利用できるようになっている。2005年には22人の女性が育休を利用されたが、一方の男性で育休をとられた方は今までないとのこと。その他に子供の病気の看護休暇があり、更に介護休職も制度化されている。



敷地内の建物

女性の管理職への登用については、「ポジティブ・アクション通信」をこれまでに3回発刊し、意識啓蒙に努めている。その結果、2006年4月に課長職の女性が誕生した。

今では、鳥取出身の人が地元就職するUターンのみならず、鳥取に縁のない方が就職するIターン現象も起きているようだ。

時代の景気の変動を否応なしに、受ける企業にあって「働きやすい職場」=「人材の集まる職場」を目指すことは、企業として必須条件だろう。



敷地内の庭園



取材風景

※右から経営企画室 人事部の川北さん・佐々木部長・土橋主任企画員

そうしてみると、鳥取大学時代から残っている、手入れの行き届いた美しい庭や、風格のある建物、広い構内、グラウンドの芝の1つ1つが意味を持っているような気がしてくる。

編集後記

編集委員になって初めてのインタビュー（5ページ）です。こぼれる様な笑顔の姜さん。異国の地より頑張っている姿……とても感動いたしました。私、日本人も見習わなければいけないと痛感いたしました!!（出村）

国際交流員の姜さんとお話して、私の抱えている人民服、自転車、儒教という中国のイメージは作られたものであったと痛感！会社訪問では、時代に対応して会社が変わっていることを発見!!（岸本）

輝なんせ鳥取

鳥取市男女共同参画センター

〒680-0022 鳥取県鳥取市西町2丁目311番地
TEL (0857) 24-2704 FAX (0857) 20-3054
E-mail danjyo@city.tottori.tottori.jp
URL <http://www.city.tottori.tottori.jp/>

※鳥取市男女共同参画センター：愛称「輝(き)なんせ鳥取」
学習や交流、情報交換など男女共同参画社会の実現を目指した拠点です。
愛称の「きなんせ」とは、たれでも気軽に集い、学び、女性も男性も共に自分らしくいきいきと輝ける社会(男女共同参画社会)の実現を願って名付けられました。